

## 東京農業大学生物産業学部と日本野菜ソムリエ協会札幌支部との 包括連携協定締結に至る経緯

日本野菜ソムリエ協会は、2001年に創設され、現在は野菜に関する様々な検定を実施し、毎年約1万人の会員を増やしている団体で、全国を統括する東京本部を中心に5つの支社で形成されている。中でも北海道を統括する札幌支部は、道産農産物の活用・普及に注力しており、特に道産の果実や野菜類の様々な香の効果にも注目している。

一方、当生物産業学部では、農畜水産物の生産から加工流通までを学ぶ総合農学的修学システムを構築しており、昨年の食品科学科の改組により、香り分野にも注力した食品香粧学科の誕生により、その応用範囲はさらに拡大した。その結果、同協会が注目している青果物の香气に関する教育、研究と当学部のコンセプトが一致し、今回の包括連携へと発展した。両者の交流は昨年度からであるが、これまで食品香粧学科の教員が札幌支社において同協会員に対して複数回の講演を実施したり、一般市民対象に共同講演会を開催するなど、共同で青果物に関する香りの啓発活動を実施してきた。また本学部で野菜ソムリエ検定を受講している本学生に対し、検定試験を実施戴く等の協働活動を実施してきた。

今後、包括連携協定の実施により、本学部は札幌支部との連携から全国の支部組織との連携に発展させ、全国の同会員を通じて農業への理解者を増やすと共に農産物に多大な興味を持っている同会員は本大学の有力なサポーターとなることが期待される。一方、同協会においても、当学部との連携によって青果物の生産から加工流通に関する広範な専門知識修得が見込まれるだけでなく、近年注目を集めている栄養面に留まらない様々な香りの機能性に関する知識の習得が可能となる。

包括連携内容の概要は以下の4項目であるが、具体的活動については担当者協議によって随時進め、双方にとって有意義な連携となることを目指す。

- (1) 青果物に関する教育・研究・文化の発展に関すること
- (2) 青果物に関する地域ならびに産業振興の発展に関すること
- (3) 青果物に関する人材育成に関すること
- (4) その他相互の協議に定める事項